

環境保全活動を推進

ISO9001 認証

環境ソリューション部、I-S 部、関東営業所、上下水道部、知多事業所、碧南事業所、開発営業部、社長室、業務管理部、総務部、長野営業所、(株)エステム長野で認証取得しています。

ISO14001 認証

本社、調査分析センター、小牧営業所、保繕課、長久手営業所、長久手事業所、豊田事業所、安城営業所、工務課、豊橋営業所、浜松営業所、安城浄水事業所、知多事業所、三重支店、(株)エステム三重で認証取得しています。

2016年12月にISO14001、ISO9001の2015年版対応を完了しました。

ISO55001 認証 (公共下水道処理施設の維持管理業務)

本社 下水道処理施設の維持管理、技術の支援部門及び長久手南部事業所で認証取得しています。

2016年9月29日にISO55001の認証を取得いたしました。ISO55001はアセット(資産)を管理する仕組みをまとめたISO国際規格です。エステムはお客様のアセットをお預かりし、維持管理をしています。今回取得したISO55001の仕組みを用いた管理を実施することで、更にお客様に安心と信頼をご提供できるような活動を続けます。

愛知県の自動車エコ事業所認定

(株)エステムは、2009年12月に愛知県の自動車エコ事業所認定を受けています。

名古屋市認定エコ事業所

(株)エステムは、2003年5月より名古屋市のエコ事業所認定を受けています。(認定番号00166)

「エコ事業所」認定とは、事業活動における環境に配慮した取組みを自主的かつ積極的に実施している事業所について、名古屋市が認定する制度です。

第44回グッドカンパニー大賞 優秀企業賞 受賞

(株)エステムは2011年1月21日に第44回グッドカンパニー大賞 優秀企業賞 を受賞し、表彰されました。

子育てサポート企業 認定

(株)エステムは、2009年4月に次世代育成支援対策推進法第13条(子育てサポート企業)の認定を受けました。2016年1月に2回目の認定も受けました。

愛知県ファミリーフレンド企業

(株)エステムは、2010年8月に愛知県ファミリーフレンド企業に登録されました(有効期間平成30年9月30日まで)。

名古屋市女性の活躍推進企業認定

(株)エステムは、2010年3月より名古屋市から女性の活躍推進企業認定を受けています。(認定番号004)



ISO 9001 000R-335
ISO 14001 01ER-173



AS16J0002



あいち新世紀自動車環境推進委員会



名古屋市認定エコ事業所



名古屋市女性の活躍推進企業認定マーク



[所在地]

本社	〒457-0821 名古屋市南区弥次工町2-19-1	TEL (052)611-0611(代) FAX (052)612-9384
調査分析センター	〒457-0821 名古屋市南区弥次工町3-22-1	TEL (052)612-9801 FAX (052)612-7504
東京支店	〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留1-5-7 YOUビル 3F	TEL (03)5645-2360 FAX (03)6661-2964
三重支店	〒514-2221 津市高野尾町1897-48	TEL (059)230-0099 FAX (059)230-1902
安城営業所	〒446-0056 安城市三河安城町2-26-1	TEL (0566)74-0422(代) FAX (0566)76-9558
豊橋営業所	〒440-0842 豊橋市岩屋町字岩屋下96-2	TEL (0532)65-3033 FAX (0532)65-3020
小牧営業所	〒485-0084 小牧市大字入鹿出新田字郷前1169-1	TEL (0568)75-3471 FAX (0568)75-4084
長久手営業所	〒480-1113 長久手市山野田1132 橋ビル1F	TEL (0561)63-2811 FAX (0561)63-2831
浜松営業所	〒433-8117 浜松市中区高丘東5丁目6-8	TEL (053)436-7611 FAX (053)438-3944
関東営業所	〒340-0206 埼玉県久喜市西大輪3-21-4	TEL (0480)59-3877 FAX (0480)59-3887
大阪営業所	〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町3-15-23 フォレスト阿倍野208号	TEL (06)6626-3610 FAX (06)6626-3620
九州営業所	〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東2-9-13 第一東福ビル2F	TEL (092)411-9722 FAX (092)411-9750
環境研究所	〒440-0842 豊橋市岩屋町字岩屋下96-2	TEL (0532)65-3022 FAX (0532)65-3020

作成およびお問い合わせ先

株式会社エステム 総務部 TEL:052-611-0611(代) FAX:052-612-9384 URL:<http://www.stem.co.jp/>



※この環境コミュニケーションレポートは、ベジタブルインクを使用しています。

2018.6.8

2018 環境コミュニケーションレポート

Environmental Communication Report



ごあいさつ

昨年、アメリカがパリ協定から離脱することが発表され、目標達成への危機感が高まる中、日本は「気候変動対策支援イニシアティブ2017」を発表しました。これは、我が国の優れた技術・ノウハウを活用しつつ、途上国と協働してイノベーションを創出する「Co-innovation (コ・イノベーション)」をキーワードとして我が国の具体的な取り組みをまとめたものです。世界全体での大幅な削減を実現するために、日本も大きな役割を果たしていかなければいけません。

エステムでは2018年4月から、新たに水質検査機関として水道水の分析業務を開始しました。弊社の核となる維持管理業務では長く「使い終わった汚い水をきれいにすること」をメインの業務としてきましたが、15年ほど前から「これから使う水をきれいにすること」業務を本格的にスタートさせています。そのスタート後に、いつかは自社内で水道水の分析ができるようになれば・・・と思っていたことがやっと実現できました。(詳しくは8ページの特集をお読みください。)

私たちは、365日24時間対応で環境を守り、お客様に安心と信頼を提供することを仕事としています。そのため社員の働き方の形も様々であり、時代の変革に合わせて「働き方改革」にも取り組んでいます。いかに、サービスの質を落とさずに、社員の働き方を改善していくか? そのためにも、弊社開発商品であるクラウドコンピューティングシステムを活用した遠方監視・管理システム「SACRA®」を活用し始めています。トータルのシステムでお客様の施設を管理し、高度で効率的な水処理サービスを提供することで、環境負荷の低減だけでなく、排水処理担当者様、さらには自らの働き方改革にも寄り添っていきたくと検討を続けています。

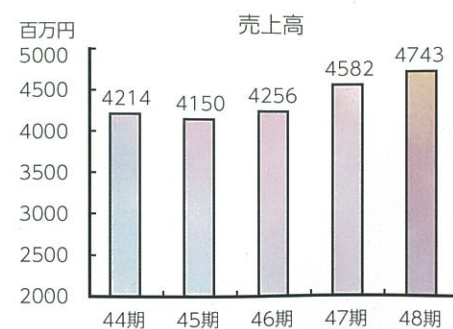
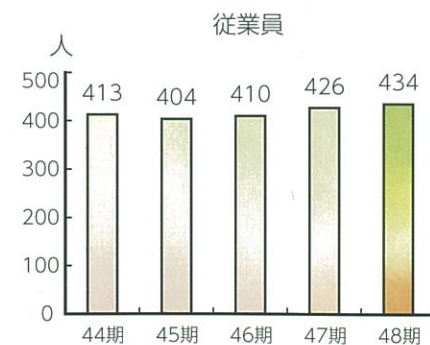
持続可能な社会の実現に貢献するとともに、「お客様第一主義」を実践し、常にお客様に「安心と信頼」をお届けする活動を続けていきます。これからも、エステムグループをよろしく願いいたします。

なお、本レポートに関するご意見、ご感想がありましたら、当社スタッフまで頂ければ幸いです。

株式会社エステム 代表取締役社長 塩崎 敦子

会社概要

商号 株式会社 エステム
 本社所在地 〒457-0821
 名古屋市南区弥次工町 2丁目19番地の1
 TEL:052-611-0611(代)
 FAX:052-612-9384
 設立 昭和45年(1970年)7月
 資本金 7,000万円
 従業員数 434名 ※2018年4月現在
 代表者 塩崎 敦子
 グループ会社 (株)エステム三重、(株)アイ・メッツ、
 (株)エステム長野、(株)日新技術コンサルタント



経営理念

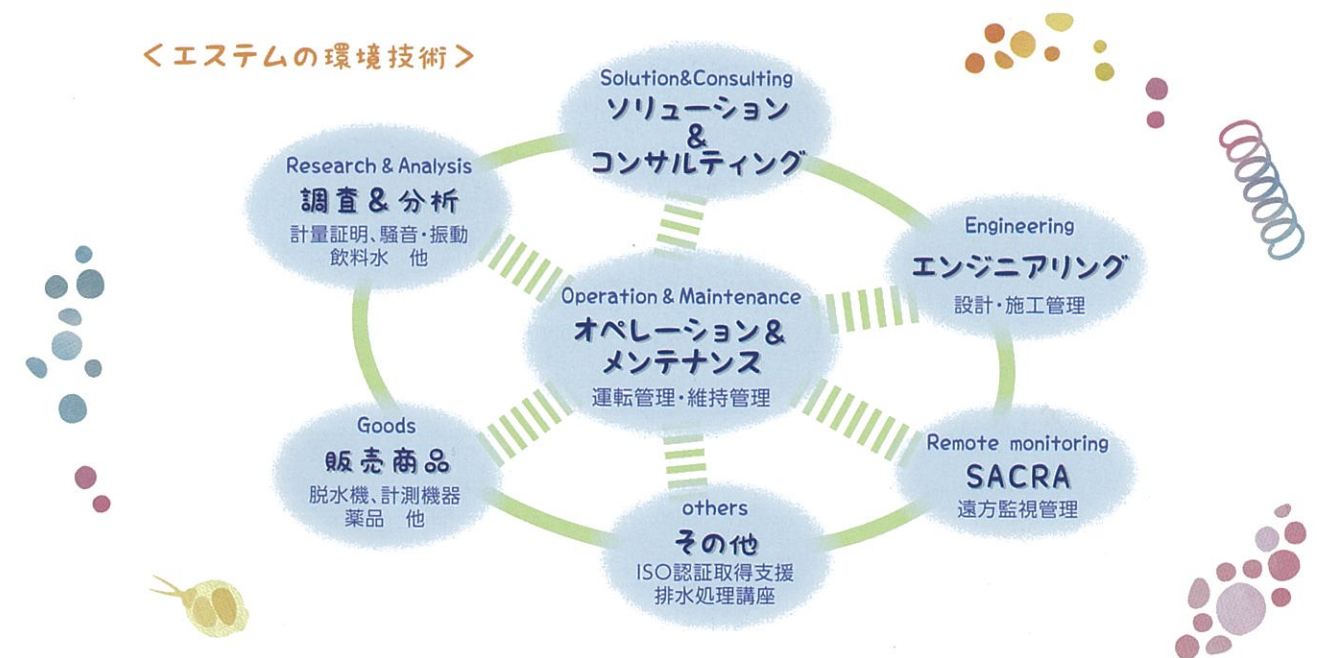
株式会社エステムは水を中心とする環境文化と、
安全で快適な自然環境の創造を通じて社会に貢献します。

環境・品質方針

エステムグループは水を中心とした環境保全事業を推し進めます。
正確さ、誠実さをモットーに「安心」と「信頼」を提供し、「お客様第一主義の徹底」、
「自然環境と生活環境の保全」を実行することを基本理念とします。

- 基本理念を実現するために、次の項目を重点項目とし、環境目的・目標ならびに品質目的・目標を各部門で設定して活動します。
 - 納期を厳守し、お客様のお求めになるサービス・製品を提供
 - 事業活動に伴う省資源・省エネルギーの推進
 - 改善提案力および問題解決力の向上
 - 環境整備を推進
 - 環境問題の啓発活動・ボランティア活動を推進
- お客様要求事項、関連する法規制およびその他要求事項を順守します。
- お客様満足度を向上させるために、環境・品質マネジメントシステムを継続的に改善します。
- 環境負荷低減を図り、環境汚染の予防を推進します。
- 本方針は必要に応じて見直しを行います。また全社員に周知するとともに、関連会社および社会に公開します。

<エステムの環境技術>



エステムのコア事業はオペレーション&メンテナンス(環境施設の運転管理、維持管理)です。
「エステムに依頼すれば何事も必ず満たしてくれる」とご満足いただけるような真のお客様第一主義を徹底するために、長年培った技術力と経験、知恵と想像力を基に、日本一のサービスを提供することがエステムの基本です。

<第48期環境管理計画(2016年10月～2017年9月) 主な目標と実績>

方針	48期目的・目標	48期実績と今後の課題	本社/各部署
----	----------	-------------	--------

1. 環境関連法規則等の遵守

法令、条例、協定などを遵守し、地域の配慮事項を尊重します	法令、条例について違反はしていません。また訴訟はありません。		本社
------------------------------	--------------------------------	--	----

2. 環境負荷の低減活動を推進

省資源・省エネルギー化を推進します	自動車適正走行により燃費 14.6km/L	全車平均の燃費は 14.2km/L で、目標達成となりました。 ※ 48期から「e燃費」のサイトの実燃費データを参考に、目標燃費を 14.6km/L と決めました。この目標を達成できるよう、エコ運転を心がけるようにしていきます。	本社
	低排出ガス車を導入	ハイブリッド車の保有台数は 18 台です。48 期の新規導入はありませんでした。	本社
	電気料金削減	昨年度(47期)までは、32期を基準年として電気使用量の削減に取り組んでまいりましたが、48期(2017年1月)から、本社ビル内にあった調査分析センターが新社屋に移転したため、これを機に電気使用量を本社ビル単独から、営業所も含めて合算で算出することとしました。今後は48期を基準といたします。	本社
廃棄物の削減、リサイクルを推進します	廃棄物を 100% 分別	本社では 3R ステーション(5 分別)を設置し、100% 分別実施しています。各営業所でも分別を推進しています。	本社 各部署
	紙の 100% 分別・リサイクル	古紙回収システムを確立し、100% 分別、リサイクルをしています。	本社
グリーン商品を購入します	グリーン商品購入率 70%	グリーン商品購入率 55.3% でした。	本社

3. 啓発活動・ボランティア活動を推進

社員一人ひとりが環境問題に対する関心と知識を深め、啓発活動・ボランティア活動を推進します	エコ・ルール推進	月 1 回エコ・ルールのチェックを実施しています。	本社	
	中国・内蒙古自治区における植林	8 月に 2 名の社員を派遣しました。総勢 28 名のグループで、450 本のポプラを植林しました。	本社	
	東三河の森における植林	5 月 13 日～ 14 日に 50 名のグループ社員が参加しました。	本社	
	木曽福島の水源の森林づくり活動	9 月 9 日～ 10 日に 27 名のグループ社員、14 名のお客様が参加しました。	本社	
	清掃ボランティア実施	本社周辺：毎週火曜日の朝礼後に実施しています		本社
		地域清掃：名古屋市南区、長久手市、三河安城町(毎年 2 回～毎月 1 回実施しています)		本社
		各地区： 明治用水土地改良区：川と海のクリーン大作戦 2016年10月15日 5人参加 小牧市民祭り：清掃 2016年10月15日 6人参加 三重県：川と海のクリーン大作戦 2016年10月30日 9人参加 豊橋市：530 運動 2017年5月24日 5人参加 長久手市：530 運動 2017年5月28日 10人参加		各部署
環境フォーラム開催	2017年6月7日に第27回環境フォーラム、6月24日に事後勉強会を開催しました。	本社		

4. 環境保全活動を推進

環境保全活動、環境管理システムの継続的改善、向上に努めます	ISO14001 認証	本社、調査分析センター、小牧営業所、保繕課、長久手営業所、長久手事業所、豊田事業所、安城営業所、工務課、豊橋営業所、浜松営業所、安城浄水事業所、知多事業所、三重支店、(株)エステム三重で認証取得しています。	本社
-------------------------------	-------------	---	----

5. 環境・品質方針の周知徹底と情報公開

環境・品質方針を全社員に周知するとともに、関連会社および社会に公開します	内定者への教育、購買先、協力会社へ環境・品質方針の周知	内定者を対象に入社前通信教育を実施したほか、購買先、協力会社への環境・品質方針の送付も行いました。	本社
	環境・品質方針を社会に公開	ホームページ上で公開しています。	本社

<環境負荷低減活動推進>

1 社有車排出ガス対策 (対象:本社)

社有車の排出ガス対策を進めています。

(1) 燃費目標の設定

全車平均の燃費は14.2km/Lでした。48期から「e燃費※」のサイトの実燃費データを参考に、目標燃費を14.6km/Lと決めました。この目標を達成できるよう、エコ運転を心がけるようにしていきます。

(2) ハイブリッド車への切り替え

社有車のハイブリッド車への切り替えを進めています。現在の保有台数は18台です。

(3) その他、エステムオリジナルの「エコルールチェック表」に基づく自己診断や、運転状況の記録・解析をする「セーフティレコーダー」を活用し、社有車の燃費向上に努めています。

※e燃費 URL <https://e-nenpi.com/>

2 電気使用量削減 (対象:本社及び8営業所)

	電気使用量合計 (kWh)	金額合計 (円)	CO2 排出量 (t)
48期	506,609	11,457,815	262.4

(1) 従来本社ビル内にあった調査分析センターが2017年1月から新社屋に移転し、稼働しました。これを機に電気使用量を本社ビル単独から、営業所(8ヶ所)も合算で算出することとしました。今後は48期を基準とします。

(2) 調査分析センターで、エネルギー量の把握と合わせて省エネ活動を行いました。

(3) 本社ビルのテナントの出入りに合わせてデマンド値を見直し、省エネに取り組んでいます。

(4) 毎月最後の金曜日をノー残業デイとし、仕事の効率化を呼びかけています。

3 太陽光発電 (対象:本社、調査分析センター)

2008年10月1日から本社ビル屋上に太陽光発電システムを設置、稼働しています。また2017年1月からは新社屋に移転した調査分析センターの屋上にも太陽光発電システムを設置、稼働しています。

4 節電 (対象:本社)

本社ビルにデマンド監視装置を導入しています。電気使用量がリアルタイムで見える化されたことにより、省エネ意識の向上に繋がっています。各フロアで電気使用量に合わせた節電アクションを行ない、エネルギー使用量の削減を目指しています。

5 グリーン消費購入と環境配慮について (対象:本社及び分析種、保繕課、I-S部)

文具、OA機器、制服などについてグリーン購入法適合商品やエコマーク、グリーンマークなどの環境マーク表示のあるものを積極的に使用しています。48期の全購入物品に対するグリーン商品購入率は55.3% (本社で注文している商品の実績) でした。

6 廃棄物の100%分別実施 (対象:本社)

オフィス用紙、段ボール類、そして新聞紙などの紙ごみは、裏紙利用と古紙回収を活用することで100%の分別およびリサイクルを達成しています(機密書類を除く)。その他の廃棄物についても、保繕工場に3Rステーションを設置し、分別に努めています。

	金属屑	金属付廃プラ	廃プラ廃ゴム	紙・木繊維屑	ガラス屑陶磁器屑	廃油	計
44期	478.6	497.8	1123.8	67.7	306.4	327.5	2801.8
45期	662.8	587.6	1120.7	66.6	392.2	352.7	3182.6
46期	378.1	545.5	1134.3	111.0	204.2	310.5	2683.6
47期	447.9	651.0	1106.0	118.7	107.2	260.4	2691.2
48期	341.1	524.5	1671.3	268.4	117.8	259.6	3182.7

調査分析センターのご紹介



- ☆建築物省エネルギー性能表示制度(BELS)評価で最高ランクの★5つ取得
- ☆CASBEE名古屋で最高ランクのSランク

名古屋市では、市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例(環境保全条例)により、建築主に対し、地球温暖化の防止その他の環境への負荷のための措置を講ずるよう努めることを定めています。※エステムの調査分析センターは、建築物の環境配慮の評価(CASBEE名古屋)において、平成27年度「Sランク」物件として名古屋市HPでも紹介されています。

※具体的には、環境配慮の措置を記載した建築物環境計画書の届出制度が定められており、建築物環境計画書では、建築物の室内環境などの環境品質と、エネルギー、資源、CO2などの環境負荷について自己評価を行い、結果をS、A、B+、B-、Cの5つのランクに格付けしています。(評価ツールは建築物環境総合評価システム(CASBEE、キャスビー)の建築(新築)をベースに名古屋市の届出用に開発されたCASBEE名古屋を使用)

＜ボランティア活動推進＞

中国・内蒙古自治区における 沙漠緑化活動

1996年より中国内蒙古自治区クブチ沙漠での緑化活動に参加しています。48期は8月13日～19日の7日間、社員2名を派遣し、総勢28名のグループで、450本のポプラを植えました。



関東営業所 大島谷 志

現地に着いて「思っていたよりも草が茂っており、緑があるなあ」と感じました。植樹以外に砂止めを行う事で自然に草が生えてきて緑化になるとの説明を受けました。継続して活動する事で、大きな力になるんだと実感しました。夜は沙漠で星空観賞会を行いました。日本では見られない星々の数に感動しました。初日から飛行機が欠航したり、荷物が届かなかったり、飛行機のチケットが無かったりとトラブル尽くしの植林でしたが、予定には無かった万里の長城や頤和園、北京五輪のメイン会場(鳥の巣)観光もでき、楽しかったです。内モンゴル大学では普段は非公開の貴重な図書資料を見ることもでき、勉強になりました。

植林やボランティアに興味を持っている人は是非参加して貰いたい。自分の肌で異文化を感じることで自分自身の成長に繋がります。トラブル等もあると思いますが、それも楽しみです。考えるだけでは変わりません。行動しましょう！！

エステム三重 高木 祐輔

「水の無い場所に何の木をどのように植樹するのか？」という興味と、日本とは異なる沙漠の風土を感じてみたいと思い植林に参加しました。

言葉が分からない、通じないことが不安でしたが、実際に行ってみると、思いのほか、勢い、雰囲気、表情と身振り手振りなどでなんとかなりました。英語の通じない商店にも行きましたが、意外となんとかなるものです。

現地の食事は非常に美味しく、麻婆豆腐は辛く、北京ダックも肉々しくて非常に飯が進みました。モンゴルでは羊肉のしゃぶしゃぶを食べましたが、あっさりしていて食べやすく、肉盛りのお皿を3枚いただきました。ご飯は日本に比べて粘り気がなくパサパサしていたのが少し残念でした。あと、出された料理を全部食べ切ってはいけない(これでは足りない！という意思表示)という風習に驚きました。今後、海外植林に行く方は、現地の風を感じて楽しんでください！

東三河の森での植林

設楽事務所 松縄 泰天

最近、林業がテーマの「神去りなあなあ日常」という小説を読んで、林業も面白いなと思い、今回の植林に参加しました。…というのは建前で、本当はタダで飯が食べられると知り、参加しました。こんな不純な動機でしたが、結論から言うと参加してよかったです。

植林前日は旧門谷小学校のグラウンドでバーベキュー。配属先が設楽事務所ということもあり、なかなか同期と会う機会が少ないため、久しぶりに同期と会って話せて楽しかったです。また、先輩方とも交流でき、充実した時間を過ごせました。

植林当日は森林真剣隊の皆さんと植樹などを行いました。暑い中でも子どもたちは元気いっぱい、私も負けていけないなと思い、頑張りました。午前中は団子山で草刈りと、もみじやツツジ、八重桜などの植樹を行いました。中でも八重桜は5年程度で花を咲かせるそうです。午後は



以前に植樹を行ったもりもりの森へ移動し、草刈りなどの環境整備を行いました。植樹した後も人が管理しないと森がダメになってしまうそうで、森林真剣隊のような方々が森を管理してくれているおかげで豊かな自然が保たれているのです。どこか私たちの仕事と似ていると感じ、日々の点検作業などを疎かにせず、今回植樹した八重桜に負けないように仕事を頑張っていきたいと思いました。

木曽福島の水源地の森林づくり活動

男川浄水事業所 村上 鎮弥

今年も行ってまいりました。一日目は木曽研修所で恒例の宴会です。美味しいご飯を食べ、美味しいお酒を呑み、時間を忘れて語り合う。次の日が地獄？知ったこっちゃなえです。他部署の方と交流を深めるとも楽しいひと時です。普段聞くことができない現場のことから雑談まで、様々な話題で盛り上がり夜が更けていきます。朝は予想通りの惨状となったのは言うまでもありません。

二日目は朝から山での作業です。見失ってはならない本来の目的です。思った以上に山奥です。昨年までは比較的開けた緩やかな斜面で手鋸を使った枝打ちや刈払機での下草刈りが主な作業でした。ですが今年の山は一味違います。斜面がきつい！道が狭い！刈払機が入れない！手鋸しか使えない！！育林の邪魔になる雑木の伐採が主な作業でしたが、その周りに生い茂っている笹の量がすごい。しかし刈払機が入れないため一気に刈ることでもできず、手

鋸で自ら切り開いていくしかない。笹の刈り取りがメインなのではないかと錯覚しかけたのは1度や2度ではなかったでしょう。

ですが今までで一番キツイと感じた作業の手を休めて一息、木々を見上げた時に見た空の明け方は今までになく感動的でした。こんな景色になるのか、と。作業が終わったあとは恒例のカレーが待っています。トッピングも豊富でこれがまあ美味しい。おかわり自由。大盛り無料です。美味しいごはんで一息ついたところで解散となりました。参加された皆様、お疲れ様でした。ご協力いただいた方々、ありがとうございました。また来年もよろしく願い致します。



地域清掃ボランティア実施 (対象:本社、各営業所、事業所)

本社

1990年、ある社員の「一緒に道路に落ちているゴミを拾いませんか？」の一言から始まった活動です。毎週火曜日の朝礼後に本社周辺のゴミ拾いをしています。

安城浄水事業所

2016年10月15日 川と海のクリーン大作戦 5人参加

小牧営業所

2016年10月15日 小牧市民まつり 清掃ボランティア6人参加

エステム三重

2016年10月30日 川と海のクリーン大作戦 9人参加

豊橋営業所

2017年5月24日 530運動 5人参加

長久手営業所

2017年5月28日 530運動 10人参加



チャリティーカレンダー展へのカレンダー寄付 (対象:全社)

年末年始にはお客様や協力会社から頂いて余ってしまったカレンダーや手帳類を広島ケナフの会主催のチャリティーカレンダー展へ送付しています。全国から善意で寄せられたカレンダーや手帳が1部200円で販売され、全収益金が財団法人ヤマト福祉財団やあしなが育英会に寄付されています。

古切手、プリペイドカード回収 (対象:全社)

古切手や使用済みプリペイドカードを集め、財団法人ジョイセフに届けています。これらは資金化され、アジア、アフリカ、ラテンアメリカなどの母子保健、寄生虫予防、栄養改善等の生活改善運動に活用されています。ただ捨ててしまえば廃棄物ですが、普段の生活において、ほんの少し意識するだけで気軽にできるボランティアです。

特集
①

水質検査機関として業務を開始しました!

水の重要性

水の重要性は日を追うごとに増し、平成26年に『水循環基本法』が制定されるなど、水は国民共有の貴重な財産として位置づけられています。また各種震災発生時、被災地では飲み水がすぐに手に入らないなど水道水がない事態は、日常生活に支障をきたします。それだけ飲み水・水道水は、貴重な資源であり、誰もが、いつでもどこでも、安心して使用できる状態は必要不可欠です。

水は、自然環境中で雨となって降り注ぎ、その一部は地中にしみ込み長い年月をかけて自然浄化され、河川水や地下水等となり、我々が使用します。我々が汚した水も、各処理場できれいにされますが、自然の浄化能力でさらにきれいにされます。水は、地球という惑星の中で絶えず循環し、浄化され、その恩恵を我々は受けています。

水質検査機関登録への背景

『株式会社エステムは、水を中心とする環境文化と安全で快適な自然環境の創造を通じて社会に貢献します』。これは、当社の経営理念です。この経営理念のもと、下水処理場や民間の工場排水などの維持管理、遠方監視、設計・工事、修繕、水質分析等、幅広く業務を展開してきました。使用した水は汚れます。そのため、あらゆる手段を駆使し、水をきれいにし、環境負荷低減に努めてきました。当社の長年の業務の一つは、汚れた水をきれいにすることでした。

近年では、汚れた水をきれいにするだけでなく、きれいで快適な水を供給することも増え、工業用水や水道関連の施設維持管理を通じて、社会貢献をしてきました。

これらの施設維持管理の品質向上をするためには、管理のみならず、その周辺に存在する様々な業務に理解・精通してこそ、真にお客様へのサービス提供・満足度向上につながると考えました。そして今回、水道の水質検査を自ら実施することができるように準備を進め、平成30年3月に『水質検査機関』としての登録を完了し、同年4月より業務を開始しました。

我々が蛇口を開け、水道水をいつでもおいしく飲むことができるのは、各市町村をはじめとする関係者が日々、施設の管理を行い、365日24時間稼働しているお陰です。この水道水は、あらゆる方法でチェック・検査をされ、我々は安心して飲むことができます。水道水は我々が口に含むものであり、安全・安心の確認をするための検査は非常に重要です。この領域で新たに、社会貢献したいと思えます。

『株式会社エステムは、水を中心とする環境文化と安全で快適な自然環境の創造を通じて社会に貢献します』を肝に銘じ、安全と安心を提供し続けます。

水質検査機関への思い

当社では、数年前に新しい分析・検査室を建設することを決定し、検査室設置の検討を開始、将来に向けて水道の検査を実施するための検査室・検査機器についても検討作業が繰り返されました。多くの方にご協力をいただき、平成28年12月、調査分析センターを建設しました。建設完了後、水道の検査を実施できるようにと、検査機器の稼働・習得、各種手順書の整備、データの信頼性を確保するための精度管理試験などを繰り返し、厚生労働省への申請・修正を繰り返し、登録を完了しました。



従来、当社が行ってきた排水の分析と水道水の検査を比較すると、水道検査では非常に低濃度までの検査、その検査精度の高さが求められます(我々が飲む

水なので、当然なのですが...)。そのため水道水質検査を実施するにあたり、次の点に配慮しています。

- ①排水・汚水等といった試料と検査室・検査機器を分ける。
- ②手順書の整備をしっかりと行い、高品質を目指す。
- ③いつでも信頼性の高いデータを確保できるように、教育・精度管理試験に力を入れる。
- ④従来の排水分析と比較して、より低濃度の検査が求められることから、検査員の更なる技能向上につなげる。

自社で検査可能な体制を構築したことで、当社の強みである維持管理と一体となったサービスを提供できるようになりました。また工事や計装機器類の点検などあらゆるサービスを提供し、従来の排水だけでなく、水道関連でもトータルソリューションビジネスを提供することが当社の使命です。



特集
②

Vietnamで排水処理講座を開催しました!



2017年6月、ベトナム・ロンアン省にて2日間の排水処理基礎講座を開催しました。エステム初の海外出張講座となったこの講座には、ロンアン省の工業団地で実際に運転管理業務を行なっている方、工業団地以外で排水処理施設の運転管理している企業の方33名が受講されました。

経緯

2016年12月、日本貿易振興機構(JETRO)が主催するベトナム環境ビジネス商談会に海外部長の丸山が参加。ショート・プレゼンテーションを行ったところ、興味を持ったロンアン省の職員に声をかけられました。

ロンアン省は稲作を中心とする農業が盛んな地域ですが、ホーチミン市に隣接するという立地条件を活かして、急速な工業化を進めており、メコンデルタ地方で最も多く外資を誘致している地域の一つです。このため、生活排水や工場排水処理という問題が次第に顕在化することを危惧していました。

現地訪問

丸山が現地を訪問し、実際に工業団地の処理施設を視察した結果、それぞれの施設が問題を抱えていることが分かりました。処理システムこそオートメーション化されているけれども、センサーの管理や点検に問題があったり、設計水量通りの流入量ではなかったのです。

その後、ロンアン省のトップであるバム・ラーン書記長とデュオック副書記長に直接面会しました。現地技術者を対象に、設備を最大限に活かした最適な運転管理を学べる講習会を開きたいこと、また、ロンアン省はこれから発展していく地域なので、今、どうするかが重要であるということ、工業化が進むにつれて、今までなかったものが必ず環境に排出される、汚れてから手を打つのでは遅い、という熱い想いを伝えました。

また、ロンアン省が東京で誘致セミナーを開いた際に、エステムが東京で運転管理している実際の現場を見学していただいたことで、ロンアン省の信頼を得ることができ、今回の開催の流れとなりました。

ついにベトナムへ!

同年6月、満を持して実施したエステム初の海外排水処理講座は、2日間に亘り、大きく3つの内容でお伝えしました。

1. 水処理の基礎的な知識
2. 計装機器について
3. 水処理に必要な薬品について

「活性汚泥とは何か?どこからくるのか?」「なぜこの処理フローなのか?なぜそれが必要なのか?」「それぞれのセンサーにどのような役割があり、何を測定しているのか」という技術的な基礎から、薬品の取扱い方法や注意点、現場での安全作業に

ついても紹介しました。講座の途中や休憩時間中も質問を受けるなど、熱心な担当者様が多く、ロンアン省とは続けて良い関係が続けていきたいと考えています(エステムでは来年4月よりロンアン省から2名の研修生を受け入れる予定です)。

エステムとベトナムのこれから

エステムが日本で蓄積してきたノウハウが、今回の結果に結びついた理由を、丸山は以下の4点だと分析します。

1. 商談会でのプレゼンの内容
2. 距離的に近く、時を掴んだやり取りができたこと
3. ベトナム、日本、双方で、やる気溢れる若いパートナーに恵まれたこと
4. 設備や機械装置を売ると言わないので、押し付け感が薄かったこと(JICA談)

きっかけとなった商談会のプレゼンでは、他社が「オートメーションで全て運転管理できます。」とプレゼンする中で、エステムは「オートメーションだけで動く施設はどこにもない。どこかで人の判断やメンテナンスが必要。」「エステムは物を売るのではなく、運転管理する知識と経験を売る会社です。」とプレゼンしたことが他と違って面白かったのかもしれない、ということでした。

また、日本とベトナムという比較的近い距離で、お互いに現地に赴いて直接やり取りを重ねられたこと、ロンアン省外務省のティン・リ氏との出会い、英語が堪能で丸山同様にJETROの現地商談会でベトナムビジネスの可能性に触れたソリューション営業課の山下(現地での講義の一部や資料作成も担当)というパートナーに恵まれたことだと言います。

現地で活動する中で、「持っている技術を全部教えてしまっ、お前たちはやっていけるのか?」と何度も聞かれたそうです。それに対し、丸山は…「エステムが持っている知識技術を全部持っていけるなら持っていけばいい。ロンアン省が日本ようになるなら、それは喜ばしいことだ」と答えていたそうです。



毎日の一つ一つの業務が世界の環境、人々の暮らしに繋がっているという自負心を持って、エステムはこれからも、前例のない、新しい仕事にチャレンジしていきます。



<環境・品質方針の周知徹底と情報公開>



第27回 環境フォーラム
主催：株式会社エステム

環境イベントの企画・運営

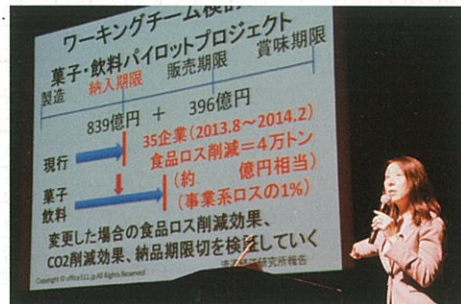
環境フォーラム

毎年6月に各分野の専門家をお招きした「環境フォーラム」を開催しています。27回目となる2017年は「捨てられる食品を救え!!～もったいない日本の食事情～」をテーマに開催しました。

事例発表 『エステムが行う食育ビジネスについて』

久保田 弘道 (コンサルティング課)

エステムでは東京の小中学校を中心に食育推進活動を行っています。食材の原型を知らない子供たちの感性を刺激するため、「食べる、見る、触る、嗅ぐ、聴く」などの体験を重視しています。魚の出前授業では、魚や海への興味付けや、箸の持ち方、食べ方、調理まで体験していただきます。保護者、地域の方々にも受講していただき、学校や家庭での残滓を減らすことに繋がっていると実感しています。



講演 『食品ロスの実態』

井出 留美氏 (株式会社office 3.11代表取締役)

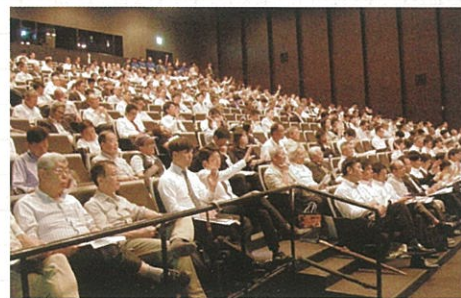
講演はクイズ形式で行われました。3分の1ルールをはじめとする食品ロスに関する「思い込み」や「実態」が次々と明らかになり、どよめきが何度も会場に響き渡りました。何か自分にもできることはないかと息を飲む会場に、各地の様々な取組のほか、今日から家庭でできる「見直しポイント10」等々のアイデアを教えていただき、参加者の「行いを変える」衝撃の時間となりました。

Q. 食品ロスは日本でどのくらいあると思いますか？

A. 日本国内の1年間の食品ロスは621万トン。東京市民が1年間に食べる量と同じ量、また世界の食糧援助量の2倍の量です。

Q. 宴会で食品ロスを減らす運動の名前は？

A. 30・10運動です。「乾杯後30分間は席を立たず料理を楽しみ、最後の10分間は自分の席に戻って再度料理を楽しみましょう。」この2つを実践する取組みです。飲食店からの生ごみのうち、約6割がお客さんの食べ残した料理です。



パネルディスカッション

パネリスト：上岡 美保氏 (東京農業大学教授)
百瀬 則子 (ユニー株式会社 上席執行役員 CSR部長)
山田 康弘 (NPO法人セカンドハーベスト名古屋 理事長)
コーディネーター：井出 留美氏

事後勉強会 『サルベージ・パーティ®』を体験しよう！

食べごろぎりぎりの野菜、買い過ぎた加工品、眠っている缶詰製品…「もてあましていた食材」をシェフの知恵と技術、参加者の調理でおいしいアイデア料理に変える『食品を救い出す魔法』、サルベージ・パーティ®！食品ロスについて学び、ライフスタイルについて見直す一つのきっかけにしたいと開催しました。参加者が持ち寄った、あり合わせの食材がおいしい料理に変わっていきさままさに魔法。楽しみながら食品ロスを減らしていくことを学びました。



ホームページ

事業内容、ボランティア活動の報告、採用情報などの会社情報のほか、『今月のコラム』(毎月社員が交代で執筆)、『環境活動』コーナーなどを設けています。また、現場のトラブル解決事例や法令の改正情報を『工場排水.com』に掲載しています。ぜひご利用ください。



環境・コミュニケーションレポートの作成

社会的な説明責任の観点から、年1回、環境保全の取り組みや環境負荷低減に関するレポートを作成しています。



メールマガジンの配信

2008年より毎月一回、無料の環境メールマガジンを配信しております。経営理念に謳う「環境文化」の創造を通じて社会に貢献する、文化の香りがするメールマガジンを目指します。お申込みはエステムHPにて。



排水処理講座

エステムだからこそできる、「現場で役立つ情報」が詰まった勉強会です。難しい技術用語や理論を、初めての人でも分かりやすく学べるほか、ベテランの方には省エネ・省資源といった現場の改善について解説します。従来、愛知県名古屋で開催してきましたが、2018年は新たに東京でも「入門編(生物処理)」を開講します。



◇ 入門編 (生物処理) 名古屋会場・東京会場

【法律】 水質汚濁防止法などの排水処理をめぐる法律を整理し、今後の対策の基礎を学びます。

【技術】 活性汚泥法、生物膜法、膜分離法といった微生物による処理方法、運転管理のポイントを解説します。

◇ オペレータ編 (製造業の方限定)

日常点検の手順、データの活用方法、薬品注入の適正量など、より現場での業務に沿った実務的な内容です。機器選定における着眼点など、設備投資の検討時に役立つ情報もご紹介いたします。

◇ 実践編

【法律】 水質汚濁防止法を中心に、排水処理に関する法律を解説します。法改正の動向など今後を見据え、今から何をすべきか考えます。確実だけど過剰でない、法令順守で抑えるべきポイントを学びます。

【技術】 放流水質を保ちながら、省エネ・省資源(薬品・電気使用量削減など)でコストを削減する方法について、様々な事例をもとに解説します。管理方法の見直しや改造に至るまでの考え方を学びます。

◇ 入門編 (無機性排水)

【法律】 水質汚濁防止法等の排水処理をめぐる法律を整理し、今後の対策の基礎を学びます。

【技術】 金属加工業、化学工業、自動車部品製造業、インク・段ボール製造業など、無機系排水の処理にかかる方におすすめです。凝集沈殿やアルカリ沈殿、共沈、ろ過、加圧浮上などの仕組みを学びます。



< 開講時期 >

- ◆ 2018年5月11日(金)、18日(金) … 入門編(生物処理)名古屋会場
- ◆ 2018年5月25日(金) … 入門編(生物処理)東京会場
- ◆ 2018年6月29日(金) … 実践編
- ◆ 2018年10月頃 … オペレータ編
- ◆ 2019年2月頃 … 入門編(無機性排水)



是非、参加してほしいのじゃ!